



UR都市機構

平成23年版 環境報告書ダイジェスト

まち・住まいと環境 2011



目次

はじめに	P1
環境配慮方針／URの地球温暖化対策	P2
UR賃貸住宅における環境への取組	P3-6
環境にやさしいURのさまざまな取組例	P7-10
データで見るUR年次報告	P11-12
マテリアルフロー	P13
東日本大震災への対応	P14

環境報告書(本編)は、WEBからダウンロードが可能です。

<http://www.ur-net.go.jp/e-report/>

はじめに

UR都市機構は、「まち・住まいづくり」を担う公的機関として、半世紀以上にわたり、安全・安心、快適で美しいまちづくりを進めるとともに、自然環境の保全・再生、資源やエネルギーの有効利用などに先進的に取り組んできました。その取組内容は毎年「環境報告書」として公表しています。

本パンフレットは、そのエッセンスをまとめて編集し直したもので、より多くの方に読んでいただき、ご理解していただくことを目的としています。さらに詳しい内容をお知りになりたい方は、是非ホームページにアクセスしていただき、「環境報告書」をご覧ください。

UR都市機構は、地球にやさしいまちづくり、人にやさしい住まいづくりに取り組み、快適で美しい社会をプロデュースしていきたいと考えています。今後とも、皆様からのご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

環境配慮方針

UR都市機構は、まちや住まいづくりを進めていくにあたり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。

1. 環境にやさしいまちや住まいをつくります

- 1 都市の自然環境の保全・再生に努めます
- 2 まちや住まいの省エネルギー化を進めます
- 3 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます
- 4 まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します
- 5 皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

2. 環境に配慮して事業を進めます

- 1 環境負荷の少ない事業執行に努めます
- 2 環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます

URの地球温暖化対策

UR都市機構は、次の3つの基本的な考え方で地球温暖化対策を進めています。

1. 地球温暖化の抑制のために、UR都市機構の業務のあらゆる分野でCO₂排出量を減らします
2. 経営組織として、費用対効果の高いCO₂排出削減の取組を優先的に進めます
3. お住まいの方や事業者などに働きかけ、連携しながらCO₂排出削減の取組を広げます

CO₂ 排出の削減総量（目標）： 14,000トン

（平成17年度を基準とした平成25年度におけるCO₂排出削減量）

UR賃貸住宅における環境への取組

UR都市機構は、昭和30年の日本住宅公団設立以来、半世紀以上にわたって、身近な自然とのふれあい、資源やエネルギーの有効利用、安全・安心で快適な暮らしなどの分野において、環境に配慮したまちや住まいづくりを行ってきました。

全国に約76万戸あるUR賃貸住宅では、省エネ設備の導入や新エネルギーの活用により、地球温暖化対策に取り組んでいます。



C ピークアラーム機能付分電盤で節電

詳細は、本編P21

電気の使用状態を表示し、音声警報により電気の使い過ぎをお知らせするピークアラーム機能付分電盤を、新規に建設するUR賃貸住宅やリニューアルなどの機会に設置しています。平成22年度は合計4,331戸に導入しました。

ピークアラームを使うと、どんないいことがあるの？

- 電気使用量がわかりやすいから、無駄使いを削減
- LED表示と音声で電気の使い過ぎをお知らせ
- 電気の使い過ぎを知らせて、住戸内の停電を防止



D エレベーターのインバーター化

詳細は、本編P21

エレベーターを、インバーター制御システムにリニューアルしています。乗り心地の改善や着床時の段差の解消が可能となるだけでなく、エレベーター昇降時の消費電力を削減できます。平成22年度は合計560基に導入しました。

インバーター化で何が変わるの？

- エレベーター昇降時の消費電力を約35%削減
- 着床時の段差が解消されて乗り心地が良くなる

屋上緑化

詳細は、本編P16

都市部のヒートアイランド現象の緩和効果があります。平成22年度は、約1万㎡の建築物の屋上や人工地盤を緑化しました。

太陽光発電

詳細は、本編P21

太陽光パネルを建築物の屋上などに設置して、発電した電力を共用廊下等の照明や集会所のエアコンなどに利用しています。平成22年度は4地区に設置しました。

主な取組

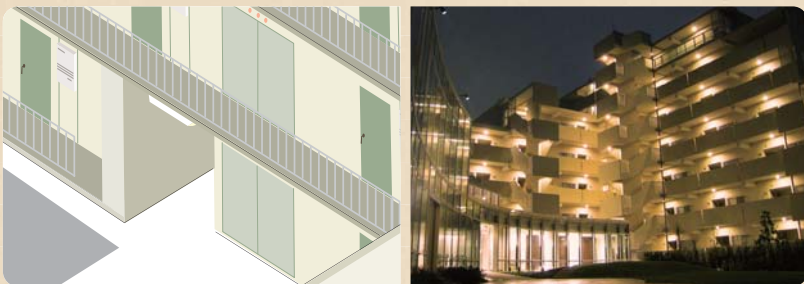
A 共用廊下等の照明はLEDのエコタイプ

詳細は、本編P20

UR賃貸住宅の共用廊下等の照明をLED照明に切り替え、消費電力の削減により、CO₂排出量を大幅に削減します。平成22年度から新規に建設するUR賃貸住宅だけでなく、既存のUR賃貸住宅でも切替を開始しました。平成22年度は合計2,769台に導入し、CO₂削減量は約50トンに相当します。

LED化で何が変わるの？

- 約10年間ランプの交換が不要
- 電力消費量約40%削減



B お風呂や台所のお湯はエコに使用

詳細は、本編P21

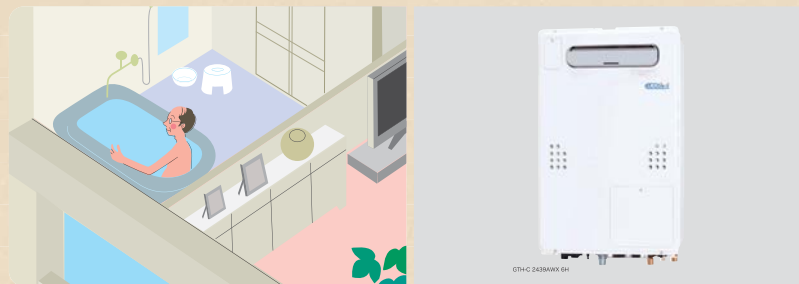
省エネ性能に優れた給湯器『エコジョーズ』[※]を導入し、お湯を使用する際に発生するCO₂排出量を大幅に削減します。

新規に建設するファミリー向けのUR賃貸住宅に標準的に設置しているほか、既存のUR賃貸住宅の一部においても、給湯器の取替えの機会等に設置しています。平成22年度は合計13,128戸に導入し、CO₂削減量は約1,500トンに相当します。

※「エコジョーズ」とは省エネルギー政策のために定められた、全国のガス事業者やガス機器メーカーが扱う給湯器（潜熱回収型）の統一名称です

エコジョーズを使うと、どんないいことがあるの？

- より少ないエネルギーで同じ温度のお湯を沸かせます
従来型に比べ、約15%効率UP！
- ガス消費量約16%削減



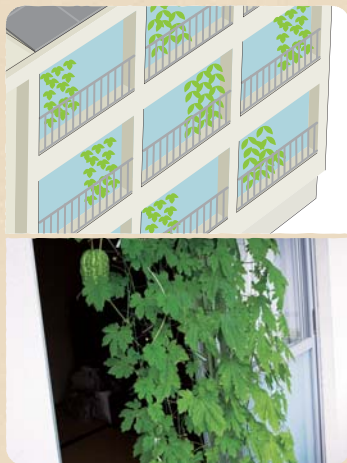
試行的な取組

a 団地のバルコニーで「緑のカーテン」を推進 詳細は、本編P34

お住まいの方が、自宅バルコニーでゴーヤなどのツル性植物を栽培して作る「緑のカーテン」の取組を推進するため、平成23年の春には約6,000戸に栽培キットを提供し、栽培講習会を開催しました。

緑のカーテンに何が期待できるの？

- 夏の暑い陽射しをやわらげ、葉っぱの間をすり抜けてくる涼しい風を感じることができることから、エアコン使用の低減を期待
- ゴーヤなどの栽培や収穫を通じてのコミュニティの活性化に期待



b カーシェアリングの導入（実証実験） 詳細は、本編P23

一部のUR賃貸住宅でカーシェアリングの実証実験を行いました。この実証実験の結果を踏まえ、環境負荷の軽減と団地や周辺にお住まいの方の利便性向上を図るため、カーシェアリングの導入拡大を検討しています。

カーシェアリングって何にいいの？

- 自動車の乗りすぎを防ぐから余計なCO₂を出さない
- 必要なときに必要な分だけの運転で、環境にも家計にもやさしい



平成23年1月、UR賃貸住宅の地球温暖化対策を公表しました。A～Dの取組により、2020（平成32）年度には、最大で約27,000トン（年間）のCO₂削減が可能です。

環境にやさしいURのさまざまな取組例

[都市の自然環境の保全・再生に努めます みなとみらい21 中央地区 (神奈川県横浜市)]

身近な空間の生物多様性 かたびらがわ ～帷子川の水辺再生 たかしますいせいせんこうえん 高島水際線公園～ (詳細は、本編 P19)

みなとみらい21中央地区にある帷子川河口部に完成した『高島水際線公園』では、「大都市の中においても、豊かな自然を安全かつ身近に感じて育てることができる」ことをテーマに、川の水辺再生をめざしました。

公園に隣接する「生態護岸」では、魚類や鳥類が少しずつ戻って、カニや貝類などもみられるようになりました。



市民団体と「生きものの観察会」を開催して、どんな生きものがあるのか調べているよ!

「潮入りの池」※(平成23年3月完成)では、水辺の生物の生息場所が陸側に広がったことで、安全に自然を観察できるよ!



たかしま すいせいせん こうえん 高島水際線公園 公園で確認したカニ



住民参加の様子

※「潮入りの池」は、川と池が繋がっており、潮の干満にしたがって水面が上下します。江戸時代に作られた大名庭園などに用いられた手法で、修景的な効果もありますが、汽水域(淡水と海水が混在した状態)の生物生息環境としても有効であり、水の出入りとともに生物も出入りすることができます。

[まちや住まいの省エネルギー化を進めます シャレール荻窪 (東京都杉並区)]

シャレール荻窪における環境配慮の取組 (詳細は、本編 P22)

シャレール荻窪は、1958 (昭和33) 年に建設された荻窪団地の建替事業により新しく生まれ変わった団地です。団地脇には善福寺川沿いの桜並木があり、周辺には善福寺川緑地・大田黒公園をはじめとした緑豊かな公園など貴重な緑資源が広がっています。それらに調和するよう、住む人にやさしい環境に配慮したまちづくりをめざしました。



保存した樹木

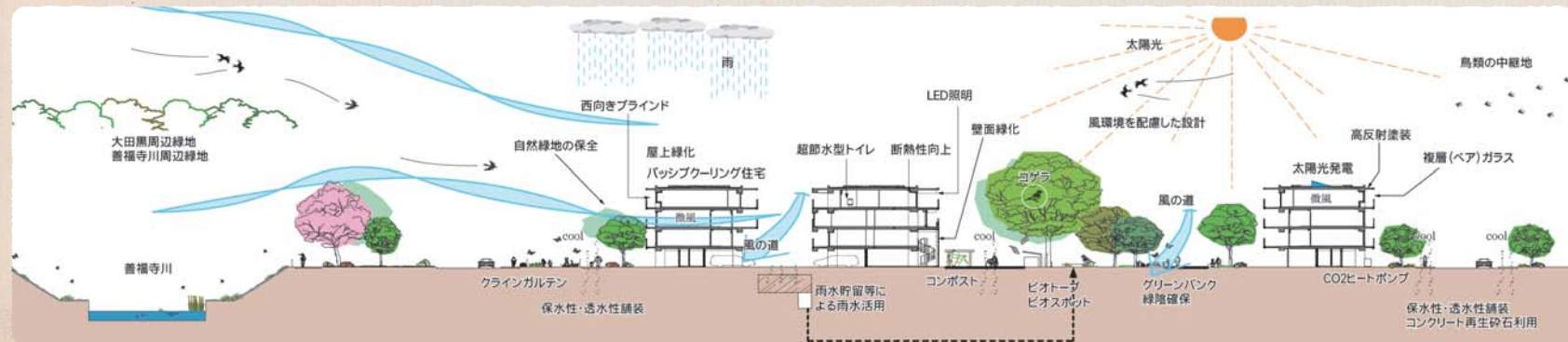


中庭の様子

「荻窪らしさ」である豊かな自然環境を継承することなどをテーマにしました。

環境配慮の取組例

- 団地で育った樹木を保存・移植
- 自然とふれあえる中庭
- 緑地からの涼風を取り込む建物の配置
- 屋上緑化、壁面緑化
- 太陽光発電
- ガス・お湯の使用量の「見える化」



風を感じて暮らすしくみ (断面イメージ)

[資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます 兵庫県仁川小学校ほか3小学校]

出前講座：建替団地の周辺小学校でのリサイクルスタディの実施

(詳細は、本編 P27)

URが取り組んでいる“資源の有効利用及び廃棄物の削減と建設リサイクルの推進”について、団地の周辺小学校を対象に授業（リサイクルスタディ）を行いました。

児童たちは、コンクリート、鉄筋、廃木材などを間近で見たり手で触れたりし、建物リサイクルへの理解と興味を一層深めたことと思います。

建物をこわして
みちになるんや。



実際の建設資材を使った説明

こんな物まで
リサイクルされるんや。



鶴舞小学校から送られてきた児童の感想文の一部です。

[皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます ガーデンシティ舞多聞^{まい た もん} (兵庫県神戸市)]

ガーデンシティ舞多聞^{まい た もん}みついけプロジェクトが、 リブコム・アワード2010環境配慮型プロジェクト賞 銀賞 及び第5回地域住宅計画賞作品部門(まちづくり)奨励賞を受賞 (詳細は、本編 P36)

ガーデンシティ舞多聞^{まい た もん}みついけプロジェクトは、「自立した持続可能な地域コミュニティ形成の実現」をテーマに、宅地完成の2年以上前から入居希望の方や神戸芸術工科大学のみなさんと一緒に、住む人の自発的な意思を反映させたまちづくりの計画や住環境を維持するためのルールづくりに取り組んできました。

このまちづくりが高く評価され、平成22年11月には、「リブコム・アワード2010」の「環境配慮型プロジェクト賞 Built部門」で銀賞を受賞。また、平成22年10月には、「地域住宅計画全国シンポジウム2010」において、「第5回地域住宅計画賞作品部門(まちづくり)奨励賞」を受賞しました。



銀賞の賞状



ワークショップの様子



みついけプロジェクトの街並み。前面道路に沿ったセットバック空間に電線類を地中化



公開講座の様子

データで見るUR年次報告

UR都市機構の環境の取組をわかりやすく例えると…

太陽光発電量 (詳細は、本編 P21)

UR賃貸住宅では、エコな取組の1つとして、太陽光パネルを建物の屋上などに設置しています。発電した電力は共用廊下などの照明や集会室のエアコンなどに使っています。平成22年度はコンフォール茅ヶ崎浜見平(神奈川県茅ヶ崎市)など4地区に設置しました。これまでに設置した太陽光パネルにより1年に約37万kWhの発電量を見込んでいます。



太陽光発電量
約37万kWh



一般家庭
1世帯の
電力消費量

約76年分

* 1世帯、1年間の消費原単位(電気)[関東]17,487MJから算出(3.6MJ/kWh)
(家庭用エネルギーハンドブック2009(財)省エネルギーセンターより)

屋上緑化 (詳細は、本編 P16)

木や草などの緑がたくさんあると、虫や鳥などが集まってきたり、まちの暑さをやわらげる効果があるといわれています。UR都市機構では、平成5年度から独自の屋上緑化づくりを開発して、建物の屋上を緑化する取組(屋上緑化)を進めています。平成22年度は約1万㎡の屋上緑化を行いました。



屋上緑化
約1万㎡



テニスコート(ライン内の面積)
約38面分

* テニスコートの大きさは、
10.97m×23.77m=約260.8㎡(ライン内の面積)

超節水トイレ (詳細は、本編 P25)

新規に建設するUR賃貸住宅では、従来の節水型便器に比べ水の使用量を2/3に低減できる超節水型便器(6ℓ/回)を標準的に設置しています。これにより、4人家族で年間約12,000ℓの節水が見込まれます。節水することで、給水にかかる送水ポンプの動力などのエネルギー使用量が削減され、CO₂排出量の削減にも効果があります。



超節水トイレ
3,153戸



2ℓペットボトル

約1,890万本分

*1世帯の節水量を2ℓのペットボトルにすると6,000本分に相当

グリーンバンクシステム

(詳細は、本編 P40)

UR賃貸住宅の建替の際には既存樹木の有効活用を積極的に行っています。長い年月をかけて育った団地内の貴重なみどりを活用するグリーンバンクシステムは、専門家による樹木調査やお住まいの方と行う樹木見学会の結果をもとに、現地で保存する、移植して地区内あるいは地区外で活用するなど、有効活用を進めています。伐採せざるを得ない樹木は、木材をベンチ用材などに活用しています。



保存樹木

432本

移植樹木

924本

リサイクルしたコンクリート塊 (詳細は、本編 P10.11)

住宅の解体に際し、分別解体を積極的に行い、廃棄物の削減及び再資源化に取り組んでいます。

リサイクルした
コンクリート塊

38万9千トン



シロナガスクジラ

約3,110頭分

*シロナガスクジラ1頭は約125トン
(国立科学博物館ホームページより)

グリーン購入

(詳細は、本編 P39)

紙や文具などの物品の調達にあたっては、環境負荷のできるだけ小さいものを仕入れるグリーン購入を行っています。平成22年度は、190品目について調達目標を100%に設定しました。その結果、すべての品目について調達率100%を達成しました。

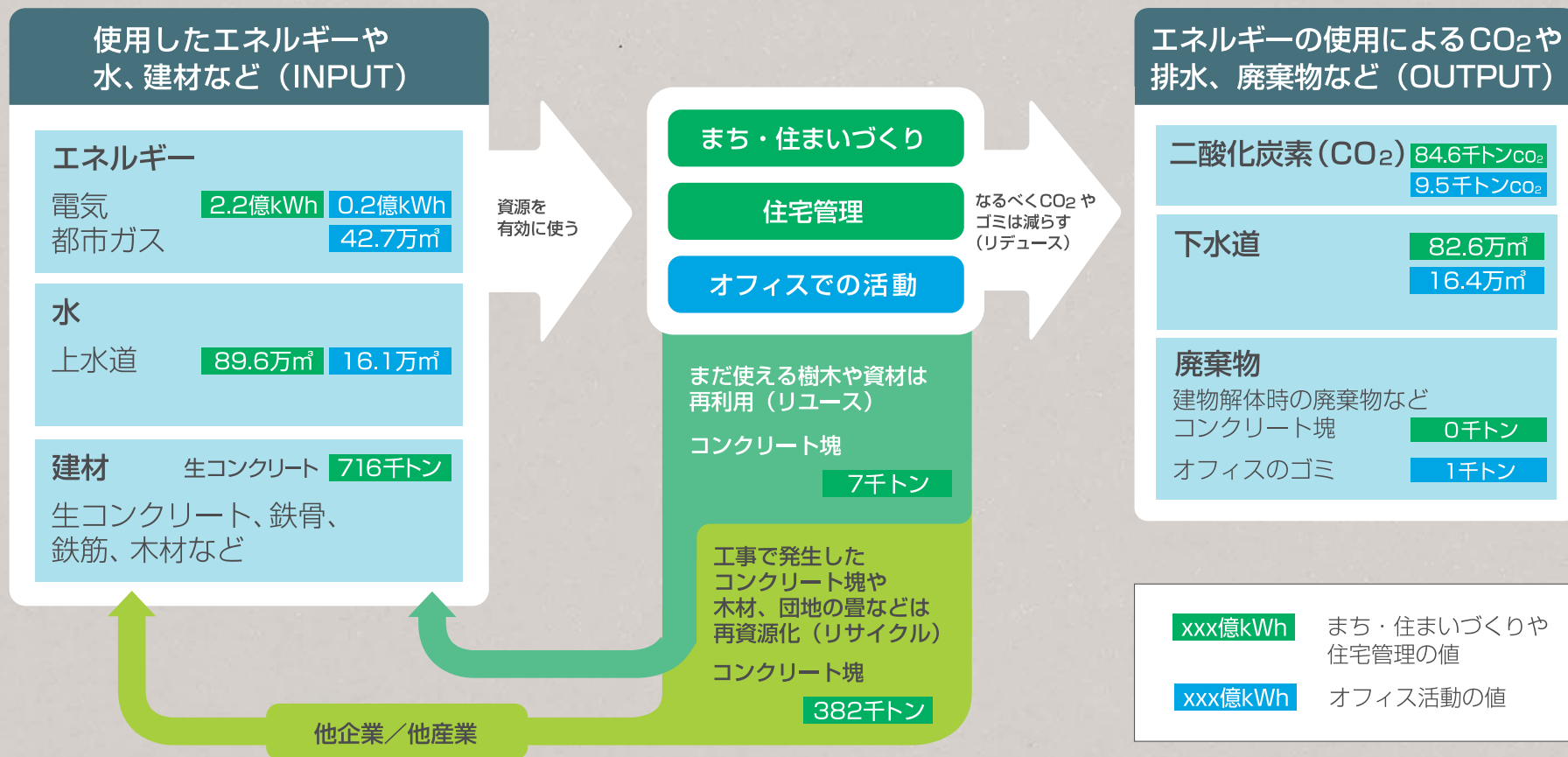


調達率

100%

マテリアルフロー (詳細は、本編 P10.11)

平成22年度にUR都市機構が使用した主なエネルギーや水、建材などの流れ



東日本大震災への対応 (詳細は、本編 P32.33)

UR都市機構では、地震発生後直ちに理事長を本部長とする『総合災害対策本部』を設置し、役職員一丸となって復旧・復興に取り組んでいます。

- ・ 全国で5,000戸を超えるUR賃貸住宅を順次提供



被災された方へのUR賃貸住宅の提供
「新宿営業センター特設ブース」

- ・ 応急仮設住宅建設支援要員 (6月30日時点で延べ160名) の派遣



建設現場 (陸前高田市) の様子

震災復興の取組

- ・ 復興支援要員 (17名) の派遣
- ・ バックアップ体制の整備



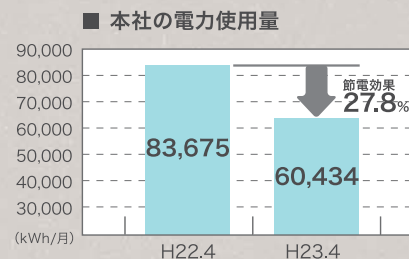
被災状況調査 (宮城県女川町)

- ・ 応急仮設住宅建設用地の提供



あすと長町の応急仮設住宅

節電の取組



4月の電力使用量を昨年と比べると本社では27.8%の節電を行いました。

——— 街に、ルネッサンス ———



UR都市機構



URの環境活動をより深く知っていただくには

UR都市機構は毎年、環境報告書を発行しています。より深く、URの環境活動を知っていただくために、ぜひこの機会に環境報告書もご一読ください。

平成23年版 環境報告書 まち・住まいと環境



この環境報告書に対するご意見をお寄せください

この報告書について、皆様からご意見をお寄せいただき、今後の業務改善につなげていきたいと考えています。皆様のご要望をよく理解し業務に反映するとともに、この報告書をさらにわかりやすくしていきたいと思えます。ご意見は、下記の連絡先のほか、WEBからもお寄せいただけます。

WEB からダウンロードが可能です。

<http://www.ur-net.go.jp/e-report/>



再生紙を使用しています

独立行政法人 都市再生機構

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町 6-50-1 横浜アイランドタワー

TEL. 045-650-0111

<http://www.ur-net.go.jp/>